

県知事賞に輝く

「川の色は教えてくれる」

本川根小学校5年 大村詩央音^{しおね}

空からの写真で見る大井川は南アルプスから出発します。下へたどっていくと川根本町があり、大井川の支流の一つが流れる寸又峡があります。ここで私は生まれました。昨年、総合的な学習の時間、大井川について「調べ学習」をした時のことです。自分の知っている川が、地図上ではわずか数センチメートルほどの細い細い一本の線だと知りました。線を見ながら思いました。「この川は、こんなに小さいけれど、川の近くにさぎやタヌキがやって来る。シカ、サル、イノシシもいる。川の中にはイワナやヤマメが泳いでいるんだなあ」そうです。ここは、自然のめぐみがいっぱいの元気な川が流れています。春になるとエメラルドグリー

休日、家族と一緒に大井川のいろんな場所で、川の写真をとってみました。エメラルドグリーンなのは、長島ダムと夢のつり橋だけでした。徳山、下長尾、家山と川を下っていくと川の色だけでなく川幅や石の大きさも変化しました。野球のボールぐらいの大きさの石が十円玉ぐらいになっていました。神座から島田へと進みました。石や魚の背中まで見える透明な水の所、底の見えない深緑色の所、いろんな色の場所の写真をとりました。なぜ、こんなに川の色がちがうのでしょうか。一つは川の深さ、中の石の種類や色のちがいでないかと考えました。もう一つは川の中の生き物、小さな生き物たちが作り出す色がちがうのだろうと今は思っています。人間の生活のしかたも、川の色と関係があると思います。川を汚せば、ゆっ

たりすることで、細菌を取りのぞいています。人の手で、6時間もかけて安全な水は作られていたのです。見た目はきれいに見える大井川の水。けれど、完全に飲める水にするため、たくさんの方が関わってくださっていたんだと知りました。川幅が広がっていくと、川の色が変わるだけでなく、人々のくらしとさまざまな関わりが生まれます。けれど、川が果たしてくれる働きは、どこであつても変わらな

ら水についての理解を深めるための行事の一環として、生を対象に「水の週間記念作文コンクール」を開催している。点の応募の中から、本川根小学校5年の大村詩央音さんが見事、賞を獲得した。昨年は芹澤航貴さん(現本小6年)が優秀賞の

本川根小学校5年 大村詩央音さん



①知事賞作品の朗読、②池谷廣くらし・環境部長から賞状を受ける、③受賞者記念撮影、④調べ学習、⑤作文中にある「夢の吊橋」、⑥作文中にある「この川、えらいな」

長島ダムを学ぼう

全国河川・ダム技術検討会で最優秀賞



国土交通省長島ダムでは、普段ダム案内を行っている若手職員3名で子ども向けパンフレット「長島ダムを学ぼう」を作成しました。

長島ダムには、小学校4年生が社会見学で来ていただいていることから、子どもたちにも理解しやすいように、町教育委員会や町内4校(本川根小学校、中川根第一小学校、中央小学校、中川根南部小学校)の先生方の協力を得て、わかりやすく、理解できる資料を作成しました。この資料を読むことで、ダムの働きを理解していただくとともに、より長島ダムへの関心が高まることに期待しています。

作成した子ども向け資料は長島ダ

ム管理所に来所される方々に配布しています。また、長島ダムホームページでご覧になれますのでダウンロードしてご活用ください。

長島ダムを学ぼう **検索**

このパンフレットは、全国河川・ダム技術検討会(平成26年2月19日開催)で中部地方整備局代表として発表し「最優秀賞」をいただきました。

今後も地域の皆さまに愛される長島ダムを目指していきますので、よろしくお願ひします。

【問】国土交通省中部地方整備局長島ダム管理所

☎(59)1021



長島ダム空撮写真
(長島ダム提供)



ン色の水面が、キラッキラッと光るのがとてもきれいです。私は「川の色は、大井川全て同じなんだろうか?」という疑問を持ち、これを『調べ学習』のテーマにしました。

の色も変わっていないので、島田市にある大井川浄水場へ行ったのも、4年生の時でした。ここでは砂をはずめたり、葉を加え

す。私はこの、小さなエメラルドグリーンの大井川、川の始まりの川が、いつまでも元気な色で輝けるよう、大事に、大事にしていこうと思います。

県は昭和53年度か次代を担う小中学県内小中学生361最優秀賞の県知事県教育長賞に輝い

